

2 刷にあたって

2023年10月7日、ガザ地区からハマスの戦闘員がイスラエルへ突入し、1日で800人の一般市民と400人のイスラエル兵士を殺害しました。

イスラエル軍がこれに対してガザを大攻撃し、1万4000人の子どもを含めて4万人以上のパレスチナ人を殺害、空爆によってガザ地区の大半を瓦礫の山に変え、ほぼ200万人の生活の基盤を破壊しました。

この本の2刷りの発行日である2024年10月7日は、“あの日”から1年というシンボリックな日です。

1年を過ぎた今でもこの状況には終わりが見えていません。見えていないだけではなく、ハマスを応援しているレバノンのヒズボラはイスラエルをドローン、ミサイルなどで攻撃し、イスラエル南部のガザ近辺のほかにイスラエル北部でも数万人の国内難民が発生しています。

一方で、ガザ地区とヨルダン川西岸ではイスラエル軍の武力行為によって毎日のように死者が出ています。1年間におよぶ泥沼状態で怪我人、死者、PTSD患者が増え、憎し

みが増え続けています。

全ての理由は、長年にわたるイスラエルによるパレスチナによる占領政策だと私は考えています。しかし、長年占領政策を無視し続けてきたリベラル系を含めたイスラエル人の大半が、現在も占領政策を無視し、「人質釈放」のみを叫ぶことが永遠の泥沼状態を作っていることを理解できていません。イスラエルでは、ガザ攻撃の4万人の死ではなく、2023年10月7日のみを「第2ホロコースト」と呼んでいるのです。

2024年10月7日 ハマスによる奇襲攻撃から1年

はじめて

わたしは日本で、平和な社会をつくるための講演活動をしています。講演を聞きに来てくれるのは、多くの場合、社会問題に関心のある人たちです。すると、どうしても年配の人が多くなりがちです。かれらがいつも嘆くのは、どうして若者は社会運動に参加しないのかということ。若い人たちは何も考えていないという声も聞きます。

でもわたしは、若者たちが社会問題に関心がないとは思いません。わたしは小学校や中学校、高校、大学でも講演をしています。子どもや若者たちは、ちゃんと耳を貸してくれます。自分たちは社会のために何ができるのだろうと考えている若い人たちはたくさんいます。

ものごとが思うようにいかないとき、悪いのは全部相手のせいだと考えるのはとても簡単です。戦争が起こるのは、自分たちだけが正しくて、相手とは対話ができないと考えるからです。わたしたちが、それと同じ道をたどってはいけません。相手は何も知らない、何もわかっていない、と考えた瞬間に、相手を失うこととなります。大切なのは、どうやったら一緒にやれるかを考え、アピールの仕方を工夫することです。

わたしはこの本を、中学生以上の若い人たち（もちろんもつと若い人でもいいですし、年配の人でもOKです）のためにつくりました。若者たちに、自分たちにも何かできることがあるよ、自分たちの手で幸せな社会をつくれるよという希望を伝えたいと思っています。この本が、今まで知らなかった事実を知り、これから自分がどう行動するかを考える入り口となってくれたらうれしいです。

ダニー・ネフセタイ



表紙のイラストについて

イスラエルでよく食べる料理を、イラストレーターのいちろうさんに描いてもらいました。パレスチナにも同じような料理があります。わたしが制作した「ちゃぶ台」で、みんなが仲良く食事できる日がくることを願っています。